

科目名	補聴器・人工内耳 I					授業の種類	演習	必修・選択	必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2年 前期
【授業の目的・ねらい】 聴力障害について学び、補聴器の適合理論と方法、評価法、装用指導について理解する。									
【実務者経験】 大阪府立身体障害者福祉センター病院にて、言語聴覚士として耳鼻咽喉科領域リハビリの従事経験。									
【授業全体の内容の概要】 補聴器・人工内耳などについて基本的な原理と補聴器適合検査や人工内耳の調整に必要な基礎的知識を理解できる。 臨床と国家試験に必要な基礎的知識と技術を身につける。									
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 聴覚障害児、者の補助手段の中で、主として用いられる補聴器の適合と訓練方法を修得する。									
回数	講義内容								準備物(教材)
1	聴覚障害者の実態、難聴について理解できる。①								
2	聴覚障害者の実態、難聴について理解できる。②								
3	補聴器の体験を通して補聴器を理解できる。								
4	難聴の程度と補聴器、補聴効果、補聴器の適応を理解できる。①								
5	難聴の程度と補聴器、補聴効果、補聴器の適応を理解できる。②								
6	補聴器の効果と限界について理解できる。①								
7	補聴器の効果と限界について理解できる。②								
8	フィッティングの流れを理解できる。①								
9	フィッティングの流れを理解できる。②								
10	フィッティングの流れを理解できる。③								
11	補聴器の種類・構造・特徴を理解できる。①								
12	補聴器の種類・構造・特徴を理解できる。②								
13	補聴器の特性測定について理解できる。①								
14	補聴器の特性測定について理解できる。②								
15	補聴器・人工内耳のまとめ学習を通して基礎知識を理解できる。								
定期筆記試験									
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚療法 聴覚障害学』第2版 医学書院									
【準備学習・時間外学習】 予習復習として教科書やプリントを読んでおく必要があります。									
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。									